



ボランティア

2009
October
vol.299

10

ボラセンスタッフ日記「フイログ」

『目黒の秋刀魚によせて～続・硫黄島からの手紙』

この「フイログ」は、当ボランティアセンターのスタッフが日々業務の中で感じるボランティア観、社会や地域でおきている出来事について、スタッフの視点で書き込む日記のような記事です。

September. 6. 2009

秋になり、秋刀魚が美味しい季節となりました。「目黒の秋刀魚」という落語があります。

目黒へ野駆けしたお殿様、家来が農家から調達した秋刀魚の塩焼きの味が忘れられない。

お客に呼ばれた先で秋刀魚を所望したところ、出てきたのは、美味くもなんともない代物。

日本橋の魚河岸から取寄せたと聞き、思わず殿様「秋刀魚は目黒に限る」

目黒で生まれて、練馬で育った私は、秋刀魚は大好き。粗塩をかけて、炭火で焼いて、油がジューズーとしているところへ、大根おろしと醤油をかけて…あーたまらない。

子どもの頃、母親が七輪で秋刀魚を焼いてくれているとき、「あ～この秋刀魚を兄さんに食べさせてあげたい…」とため息をつきながら必ず言ったのでした。

母の兄は（私から見れば伯父）秋刀魚が大好きで、身やはらわたはもちろん、頭も背骨も尻尾まで全てを食べていたそうです。

60余年前のこと、農家の次男だった伯父は、隣村へ婿に行き、片身の狭い思いをし、徴兵され、外地へ赴任し、どこかで戦死…。戦死公報のみで、遺骨すら帰ってこなかったそうです。でも、一度だけ戦地から不思議な手紙が来たそうで、「燐寸（マッチ）の軸の先で元気である…云々」という内容だったそうです。

この手紙を、受け取った母たちは「何のこつら？（方言：何のことだろ）」と不思議がっていましたが、硫黄島が玉砕したと知ったとき、「もしかすると兄は、硫黄島で戦死したのかも。マッチの軸の先には硫黄が付いているもの…、きっと自分が硫黄島にいることを知らせようとしたのでは…」と話し合ったそうです。

母親が「あ～、この秋刀魚を兄さんに食べさせてあげたい…」と言った時、その目が潤んでいたのは、秋刀魚を焼く煙が目には沁みただけではなかったのでしょうか。

私は、秋刀魚を食べる時は、硫黄島で戦死したかも知れない、会ったことのない伯父を偲び、世界の平和を心から祈りながら、頭も背骨も尻尾まで全てを食べるようにしています。それが伯父への供養と思い、心の中の小さな平和への祈りと思いながら、美味しく秋刀魚を頂いております。

「う～ん、やっぱり、秋刀魚は平和に限る！」

秋刀魚の塩焼きとかけて、素人芝居の中で見得を切る市川團十郎と解く

その心は 脇に大根が付いてます。 (土橋 和秀)



お知らせ

10月24日(土)は、福祉まつり開催のため、ボランティアセンターは臨時休館させていただきます。利用者の方々にはご迷惑おかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

発行/社会福祉法人千代田区社会福祉協議会

ちよだボランティアセンター

〒101-0065 千代田区西神田1-3-4 西神田庁舎4階

開室日・時間 月～土曜日(祝日を除く)9:00～19:00

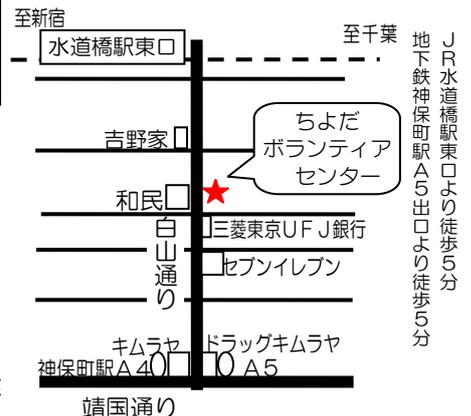
TEL 03-5282-3716 FAX 03-5282-3718

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.or.jp

URL http://www.chiyoda-vc.com

※当センターのホームページは、(株)大塚商会様の社会貢献活動の一環としてご提供いただいております。

ACCESS アクセス





みんなでボランティアしようカニ!!